

自他を大切にし、よりよい学級・学校生活を築こうとする児童の育成
～自主的・実践的な集団活動を通して～

第6学年 学級活動（3）指導案

令和3年6月30日（水）第5校時

第6学年1組 37名

授業者氏名

- 1 題材名 「今、自分ができること」
イ社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解

2 児童の実態と題材設定の理由

本学級は、男子19名・女子18名、計37名の昨年度から持ち上がりのクラスである。男女仲がよく、素直な児童が多い。学級活動では、5年生の時から係活動や当番活動に意欲的に取り組み、友達と協力して行うことの大切さも理解してきている。

本題材は、学級活動（3）「一人一人のキャリア形成と自己実現」の内容「イ社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解」として計画した題材である。6年生になって、児童は委員会活動や縦割り班活動など、学校に関わるさまざまな活動に取り組んできた。5年生の時から、「どんな6年生になりたいのか」を考えさせ、振り返りを定期的に行うことで、少しずつ自分の目指す6年生に近づいてきていると実感している児童も多い。学級や学年にとどまらず、学校のためにできることを考え、すすんで行動している児童も見られる。

一方で、計画を立てる際には意欲的だったのにも関わらず、他人任せにして最後までやり遂げることができない児童もいる。また、見通しをもって準備することができなかつたり、相手のことを考えて仕事に取り組むことができなかつたりすることもある。

そこで、本題材では、自分達に取り組んできた活動について振り返らせ、相手意識をもって仕事に取り組む大切さを再確認する。さらに、学校にとどまらず家庭や地域という視点からも自分ができることを考え、友達と話し合う。現状に満足している児童でも、誰かのために自分に何ができるのかを意思決定することで、これからの仕事にさらに主体的に取り組めるようにしたいと考え、この題材を設定した。

3 目指す児童像に向けて

- ① 自分の思いや願いをもって、意欲的に取り組むための手立て

- ・学級・学年・学校をよりよくするための課題を自ら見つけ、アイデアをだす。
- ・よりよくするための課題に対して、人に任せるのではなく、「自分からしよう」という自発的・自治的な態度を身に付ける。
- ・学年の終わりには、「学級や学年、学校のために〇〇ができた」と言える。

・実行委員の取組

5年生から各クラス3～4名ずつが集まり、学年で楽しめる企画を考え、実行する経験を全ての児童が経験している。

→クラスを超えた友達と企画を考える中で、多様な考えを受け入れ、目的達成のために協力する大切さを実感できるようにする。

→協力して実行し、友達を楽しませることで「みんなのためにやってよかった。」という達成感を味わい、さらに「またやりたい。」という意欲を高められるようにする。

・係活動の充実

学級において、当番活動、係活動以外においても同じ目的をもって集まった人がクラスのためにできることを考え、いつでも実行できる場を設定している。
 →自分がクラスのために「やりたい。」と思ったことをすぐに実現できるようにすることで、「自分からしよう。」という自発的・自治的な態度を育てる。

・道徳授業との関連

本題材に取り組む前に、道徳の授業において「気持ちよく働くために大切なこととはどういうことなのか」について、友達と考えを交流し、「働くこと」について自分なりの考えを深めた。
 →働くことの意義について考え、すすんで仕事をしようという実践意欲を高めておくようにする。

② 自他のよさや差異を認め合い、大切にするための手立て

- ・各活動及び学校行事の際、課題解決に向け、自分だけではなく他の人の仕事まで把握し、助け合って行動する。
- ・異学年交流の意義を考え行動する。

・チェックシートを用いた振り返り

委員会やクラブ、縦割り班活動では、「何のための活動なのか」を意識して活動に取り組みせ、活動後にはチェックシートを用いた振り返りを行う。
 →自分達のための活動ではないことを自覚し、自分は下学年や学校のために何ができるのかということを考えて活動することができるようにする。
 →うまくいかなかった経験を共有し、他人事にせず「自分だったら次はどうすればよいのか」を考え、課題解決に向けて意欲的に行動できるようにする。

・「なりたい自分」を見つめる警備員さんへのインタビュー

毎朝、校門に立ち登下校の見守りをしてくださっている警備員の方にインタビューをし、授業の中で見る。
 →警備員さんがどんな思いで仕事をしているのかを知り、「働く」意義について自分なりに考えを深め、「なりたい自分」について自分の願いをもてるようにする。

・ワークシートの工夫

意思決定を記入した後、数日間取り組みせ、振り返りを行う際に、自己評価だけではなく、相手からも取組に対してメッセージをもらうようにする。
 →相手意識を高めて実践させるとともに、互いのよさに気付き、感謝する気持ちをもてるようにする。

4 事前の指導

日時	児童の活動	・指導上の留意点	◎目指す児童の姿（観点） 【評価方法】
6/28（月）	・これまでの活動についての意識をアンケートに記入する。	・これまでにどんな仕事ができただのかを考えられるようにする。	◎自分の役割を理解し、これまでの自分の活動を振り返っている。 (主体的に取り組む態度) 【アンケート】

5 評価規準（第5学年及び第6学年）

観点	よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	働くことや学ぶことの意義を理解するとともに、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要なことを理解できるようにする。	自己の生活や学習への課題について考え、よりよく生きるための課題を見だし、解決のために話し合って意思決定し、他者と合意形成を図り、協働して、主体的に実践できるようにする。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標を立て、自己のよさを生かし、他者と協働して目標の達成を目指しながら、主体的に実践しようとする態度を養う。

6 本時の活動

(1) ねらい

自分の果たしてきた役割について知り、相手のことを考えてこれから自分に何ができるのかを意思決定することができる。

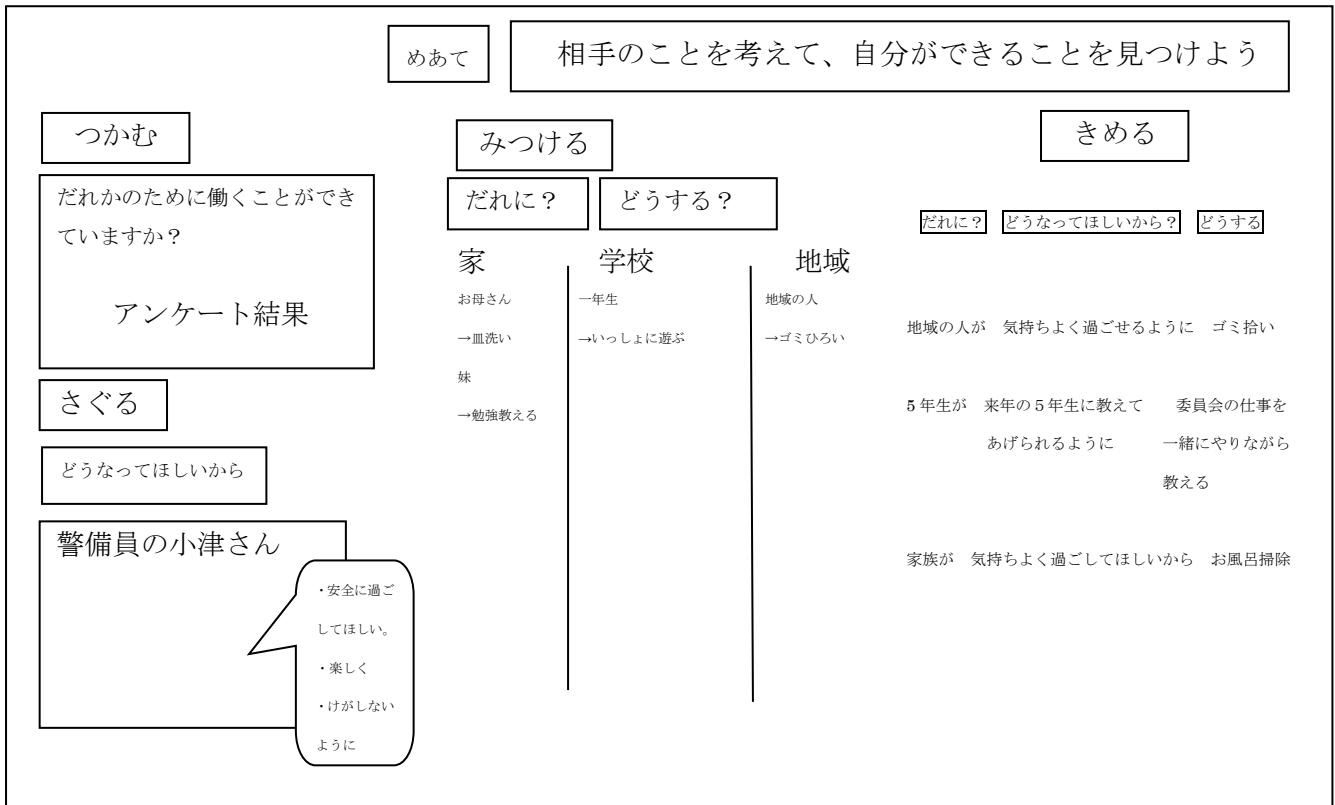
(2) 展開

話し合いの順序	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 (観点) 【評価方法】
<p>〈つかむ〉</p> <p>1 アンケートの結果から、成果と課題をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで自分達が取り組んできた活動について具体的に振り返らせる。 	
<p>相手のことを考えて、自分ができることを見つけよう</p>		
<p>〈さぐる〉</p> <p>2 警備員さんのインタビューを聞き、「働く」意義について考える。</p> <p>〈見つける〉</p> <p>3 学校・家庭・地域のためにどんなことができそうか話し合う。</p> <p>〈決める〉</p> <p>4 話し合ったことをもとに、これからの自分に何ができるかワークシートに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな思いでやっているのかに着目して聞けるようにする。 ・それぞれの視点において、具体的な場面が想起できるようにする。 ・グループで話し合う時に、互いの思いまで聞けるようにする。 ・全体で共有したことを参考にして、自分のめあてを考えられるようにする。 	<p>◎話し合ったことを生かして、だれに、どのような思いをもって何をするのかについて具体的なめあてを書いている。</p> <p>(思考・判断・表現) 【観察・ワークシート】</p>

7 事後の指導

日時	児童の活動	・指導上の留意点	◎目指す児童の姿（観点） 【評価方法】
7/1（木） ～ 7/8（木）	自分の立てためあてを意識して取り組む。 自分の活動を振り返り、自己評価・相互評価する。	・意欲を日々高めながら取り組めるようにする。 ・自分だけではなく、他の人の活躍に気付き、感謝できるようにする。	◎友達と励まし合いながら意思決定した目標に粘り強く取り組むことができている。 (主体的に取り組む態度) 【観察・ワークシート】

8 板書計画



視点

- ・振り返りに自己評価だけでなく、相手からも評価をしてもらうことで、次の意欲につなげようとした。
- ・グループでの話し合いで出た意見を「できていること」「すぐできそうなこと」「難しいけどやれたらいいこと」に整理したことは、意思決定の有効な手立てとなったか。
- ・警備員さんのインタビューを見せたことは、「どうなってほしいから」という気持ちにつなげることができたか。